

平成29年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 助教

氏名: 原 怜来

研究課題		オープンウォータースイミングトップ選手の最大酸素摂取量について
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>オープンウォータースイミングのオリンピックディスタンスは10kmであり、2時間近く泳ぎ続けることから、持久的能力が高く、最大酸素摂取量も大きいと考える。しかし、国内外を通して、オープンウォータースイミング選手の体力特性を明らかにした論文は存在しない。</p> <p>今後の強化プラン策定の際にも、五輪出場選手を含む日本トップレベルの選手と、現状のジュニア選手の体力特性を明らかにしておくことは重要である。</p> <p>そこで本研究では、2016年リオ五輪、2017年世界選手権、ユニバーシアード代表選手を含む2016年オープンウォータースイミング日本選手権上位男女各8名と2016年オープンウォータースイミング日本選手権ジュニアトップ男女各8名を対象に、流水プールにおいて最大酸素摂取量の測定を行う。最大酸素摂取量の測定は流水プールにおいて、漸増負荷法を用いダグラスバックで呼気を採取することにより算出する。</p>
	研究成果	<p>本実験を行う前の予備実験を複数回実施した。流水プールにおいて、被験者には、ウォーミングアップを30分程度行ってもらった後に、漸増負荷法(0.8m/sの流速から1分ごとに0.2m/sずつ3分まで、その後7分まで1分毎に0.03m/sずつ、それ以後は1分毎に0.02 m/sずつ増速して疲労困憊まで行わせる方法)を用いて、シュノーケルをつけた状態で、クロール泳を行わせた。その際の呼気ガスをダグラスバックに30秒ごとに採取し、採取した呼気ガスを呼気ガス分析器・ガスメーターを用いて分析し、泳動作中の酸素摂取量を測定した。予備実験を通して、実験環境の整備と、検者の測定能力の向上を図ることができた。今後は、本実験を行うことで、オープンウォータースイミング選手を対象とした最大酸素摂取量の測定を行う予定である。また、来年度には学会において研究成果を発表すると共に、論文執筆作業を行いたいと考えている。</p>
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	なし
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	なし
	・その他 *学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等	なし